

---

# ドイツ連邦議会における「ドイツのための選択肢」 (AfD) の言説

一言語表現から見たポピュリズム

伊藤 有亮

## 1. AfD の結党と躍進

2017年9月の第19期連邦議会選挙の結果、ドイツではキリスト教民主・社会同盟(CDU/CSU)と社会民主党(SPD)という二つの「国民政党」(Volksparteien)が退潮した。選挙後の連立交渉に関して、「長期にわたるジャマイカ連立交渉<sup>1)</sup>とそれに続く失敗は、CDUとSPDがもはや独自の代替的な第二連立を率いることができないほど、二つの主要陣営が弱体化していることをすでに示している」(Nachtwey 2019: 95)と、連邦レベルでの二大政党の弱体化が指摘されている。一方、この選挙で94議席を獲得し連邦議会第三党へと大きく躍進したのが、難民・移民政策の厳格化とユーロ懐疑論を掲げた<sup>2)</sup>「ドイツのための選択肢」(Alternative für Deutschland: AfD)である。

AfDは現在では右翼ポピュリスト政党とされる(佐藤 2018: 95 参照)。しかし、2013年2月に結党<sup>3)</sup>されたAfDは、「党の当初の政策の焦点は非常に明確で、ユーロである」(Berning 2018: 17)とあるように、ユーロの問題、すなわち、欧州通貨同盟に対して批判的なメンバーが集まってできた政党であった(星野 2015: 5 参照)。2013年時点の選挙用の党綱領でも、第1に置かれているのは通貨政策、次いで、欧州政策が置かれるなど、ユーロとEUが主だったテーマであることがわかる。また、移民問題については「必ずしも一方的な移民を排斥するという記

---

1) 「ジャマイカ連立」とは、CDU/CSU、FDP、緑の党の三党連立を指す。各党のシンボル・カラーがジャマイカの国旗の色と同じ黒、黄、緑であることからこのように名づけられたため、このように言われる。(横井 2019: 168-169) 参照。

2) AfDは、移民規制と、厳密な国境管理、ドイツマルクの再導入の準備、国民投票・大統領選挙の実施などを主張した。(坪郷 2018: 44) 参照。

3) 次いで、2013年4月に初の党大会が行われた。(星野 2015: 5) 参照。

述がみられず、むしろ専門的知識や技能を有する者を受け入れるという 2005 年に施行された新移民法の内容に即したものになっている」(星野 2015 : 7) など、この時点では、今日言われているような極右的な政党の綱領とは印象を別にする。

ユーロ問題で結党された AfD であるが、結党当時のメンバーの多くは、ルッケ (Bernd Lucke)、スタルバティ (Joachim Starbatty)、ヘンケル (Hans-Olaf Henkel) などの大学教授や経営者だった (Berning 2018: 17 および佐藤 2018 : 99 参照)。その後、これにガウラント (Alexander Gauland) やペトリ (Frauke Petry) などの国民保守派<sup>4)</sup>の幹部が加わり、AfD は右翼的な傾向を帯びることになった。

2014 年にドレスデンの「西洋のイスラム化に反対する欧州愛国者 (PEGIDA)」の運動が盛り上がり、各都市へ波及していった。AfD では、この運動との連携にかかわる党内闘争が繰り広げられ、「経済リベラル派」だった実業家や学者の主要メンバーが離党した (Berning 2018: 17 参照)。そして、難民危機直前の 2015 年 7 月に開催されたエッセン党大会で、創設者のルッケがペトリに権力闘争で敗れ、右翼陣営の勝利が確定した。「こうして AfD は、反ユーロ政党というよりも、右翼政党に転じたと言える」(板橋 2017 : 18)。2015 年 9 月の「難民危機」では、CDU/CSU・SPD 大連立のメルケル政権の難民政策を批判し、支持率を伸ばした。2017 年は「スーパー選挙年」(坪郷 2018 : 38) と言われ、大統領選挙、連邦議会選挙が行われた年であった。この年の選挙を決定づけたのは、「安全とアイデンティティ」(坪郷 2018 : 38) であったと言われている。選挙前の世論調査を見ると、「政権交代を期待する意識は弱いが、現政権の大連立政権の解消の意識はある。有権者にとって、移民・難民政策が最も重要な挑戦であり、不公平・高齢者補償・教育・国内安全よりも重要である」(坪郷 2018 : 39) とされ、このような世論の中で AfD がさらに支持を得て、ドイツ連邦議会の第 3 党に躍進した。

さて本論文は、このように顕著な躍進を見せている右翼ポピュリスト政党 AfD の議員たちがドイツ連邦議会において使用した語彙にどのような特徴があるのかを政治的な主張と関連付けて考察するものである。実際の分析と考察に先立って、次の章で少し長くなるが、政治哲学者ラニウス (David Lanus) による AfD の「2017

4) 「CDU (キリスト教民主同盟) の『リベラル化』に批判的な保守派の政治家や言論人」(佐藤 2018 : 99) を指す。

年連邦議会選挙のための選挙マニフェスト」の分析を紹介し、AfD がどのように主張の論拠を示すのかを明らかにしておきたい。

## 2. AfD の主張の論拠

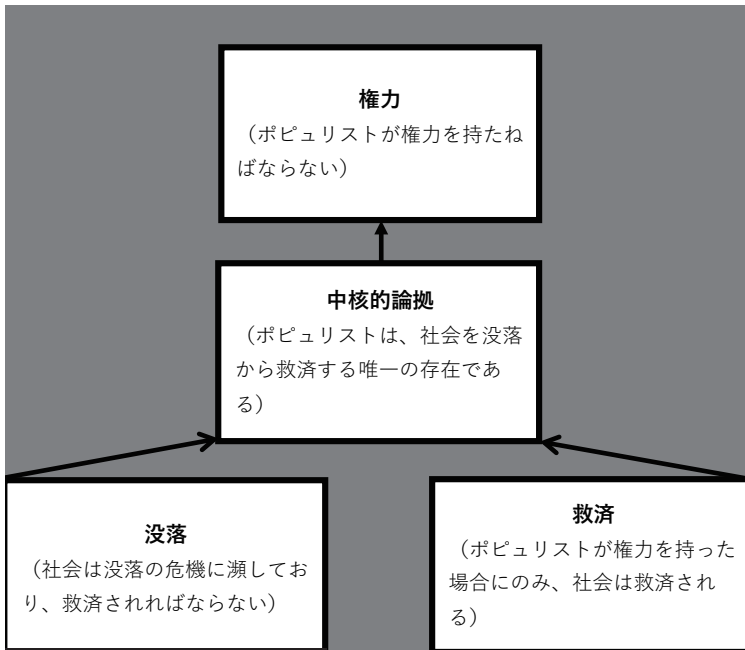
### 2.1 ポピュリズムの中核的論拠とその前提

Lanius (2017) は AfD による主張の論拠を分析するに際して、ベッツ (Gregor Betz) とブルン (Georg Brun) が示した論証分析の方法 (Betz/ Brun 2016) を適用した。Betz/ Brun (2016) によれば、論拠を示すこと (論証) には「階層的」(Betz/ Brun 2016: 42) 構造がある。

論拠とは日常的にはふつう、根拠づけのある一つの主張のことだと理解される。しかし正確には、論拠とは陳述の集合体であり、この集合体の中の一つもしくは複数の陳述が別の陳述をさらに根拠づけている。根拠づけの対象となる陳述を、我々は結論と呼ぶ。そしてその結論を根拠づける陳述は前提と呼ばれる。(Lanius 2017: 7)

上の考え方に基づいて、Lanius (2017) は右翼ポピュリズムの論拠の示し方を次の図 1 のように表した。

図 1 : ポピュリズムの中核的論拠 (Lanius 2017: 8)



この図では、「ポピュリストが権力を持たねばならない」という結論は、まず直下にある「中核的論拠」（「前提」）によって根拠づけられ、その「中核的論拠」はその直下にある「没落」と「救済」という論拠（「前提」）によって根拠づけられている。つまり、ポピュリズムの中核的論拠「ポピュリストは、社会を没落から救済する唯一の存在である」は、「社会は没落の危機に瀕しており、救済されなければならない」（没落）と「ポピュリストが権力を持った場合にのみ、社会は救済される」（救済）という2つの前提から構成されていて、ポピュリズムが訴える最終的な主張「ポピュリストが権力を持たねばならない」（権力）<sup>5)</sup>は、この2つの前提によって支えられている。

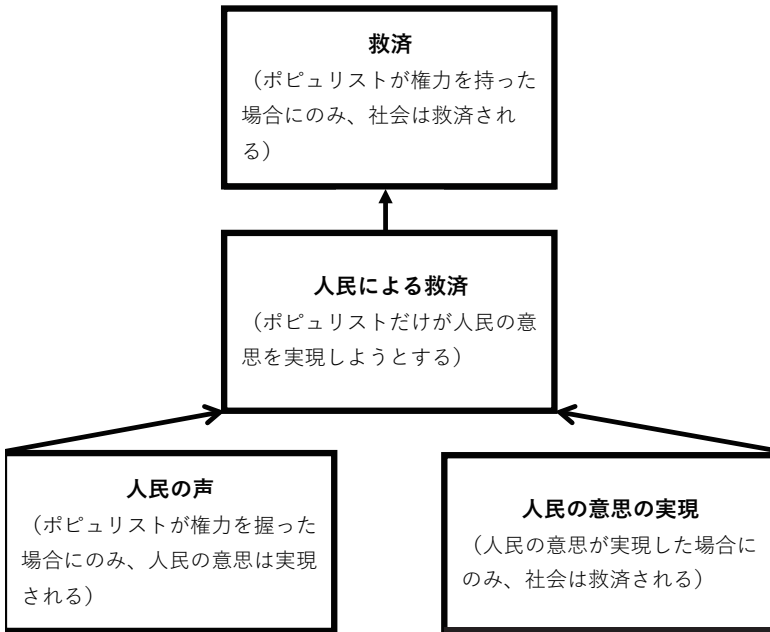
5) Lanius (2017: 7-9)によると、アメリカ大統領ドナルド・トランプの主張も、「没落」と「救済」を提示して、「アメリカを再び偉大にする (Make America great again!)」という前提と、「私だけがそれを正せる (Only I can fix it!)」という前提から「私が大統領に選ばれねばならない」という結論を導きだしている。

## 2.2 救済と没落の前提

さらに、救済と没落はそれぞれさらに別の（下部の階層にある）前提によって根拠づけられていると、Lanius (2017) は指摘する。

救済の前提の構造は、次の図2として示される。

図2：「救済」の構造 (Lanius 2017: 11)



「救済」（「ポピュリストが権力を持った場合にのみ、社会は救済される」という結論は、「ポピュリストだけが人民の意思を実現しようとする」という論拠（前提）によって根拠づけられ、この論拠はさらに「人民の声」（「ポピュリストが権力を握った場合にのみ、人民の意思は実現される」と「人民の意思の実現」（「人民の意思が実現した場合にのみ、社会は救われる」という論拠（前提）によって根拠づけられている。

そしてさらに、「人民の声」という前提も、『旧政党』(Altparteien) は人民の意思が実現されるのを阻む（「旧政党」）、『嘘つきメディア』(Lügenpresse) は人民の意思が実現されるのを阻む（「嘘つきメディア」）、EU は人民の意思が実

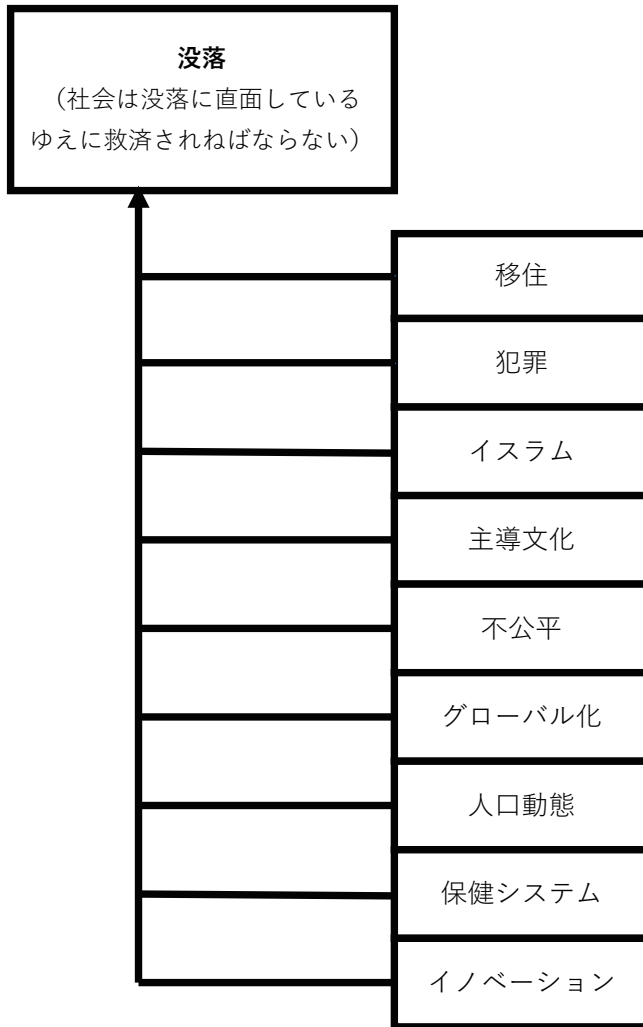
現されるのを阻む」(「EUの独裁」(EU-Diktat))という3つの論拠によって支えられている(Lanius 2017: 23 参照)。<sup>6)</sup> さらに、「旧政党」という論拠は、次の3つの前提によって導き出される。1. 「『旧政党』はポピュリストとは対照的に人民の意思を実現しようとししない(『旧政党』の人民からの乖離)、2. 「『旧政党』以外では、ポピュリストだけが権力を握ることができる」という前提(「選択肢の欠如」、3. 「人民の意思は、人民の意思を実現したいと考えまた実現できる党が権力につく場合にのみ実現される」(「権力による実現」)(Lanius 2017: 24-25 参照)。「嘘つきメディア」という論拠は、次の3つの前提によって導き出される。1. 「『嘘つきメディア』がなくなった場合にのみ、言論の自由は制限や検閲を免れることができる」(「言論の自由の検閲」、2. 「言論の自由が制限や検閲を免れる場合にのみ、人民の意思は実現される」(「検閲のない人民の意思(の実現)」)、3. 「『嘘つきメディア』は、ポピュリストが権力を握った場合にのみなくすことができる」(『嘘つきメディア』の廃止」)(Lanius 2017: 26-27 参照)。そして「EUの独裁」という論拠は、次の2つの前提から導かれる。1. 「私たちがEUから脱退した場合にのみ、人民の意思は実現される」(「EU内における人民の意思実現の不可能性」、2. 「ポピュリストだけが、EUを脱退するという政治的目標を持っている」(「EUからの離脱」)(Lanius 2017: 28-29 参照)。

「救済」の下部構造のかなり下まで見たが、「救済」とペアをなす「没落」のほうに戻ってみよう。「没落」の論拠の構造を、Lanius (2017) は次の図3のように示している。

---

6) これより下位の構造については、紙幅の都合で図示は省略する。

図3: 「没落」の構造 (Lanius 2017: 12)



没落、すなわち、「社会は没落の危機に瀕しており、救済されなければならない」という前提を理由付ける論拠として、移民、犯罪、イスラム、主導文化、不公平、グローバル化、人口動態、保健システム、イノベーションの9つが挙げられている。そして、これらの論拠は部分的にリンクしており、特に移民、犯罪、イスラム、

主導文化<sup>7)</sup>は特に密接に関係しているという (Lanius 2017: 10 参照)。それぞれの論拠を端的に表すと、

- (1) 移住 (Zuwanderung) : 難民危機は社会を脅かす。
- (2) 犯罪 (Kriminalität) : 増加する犯罪とテロの危険は社会を脅かす。
- (3) イスラム (Islam) : イスラムは社会を脅かす。
- (4) 主導文化 (Leitkultur) : アイデンティティを形作る主導文化の喪失は社会を脅かす。
- (5) 不公平 (Ungerechtigkeit) : 社会的不公平は社会を脅かす。
- (6) グローバル化 (Globalisierung) : グローバル化は社会を脅かす。
- (7) 人口動態 (Demographie) : 人口動態の変化は社会を脅かす。
- (8) 保健システム (Gesundheitssystem) : 医療システムの機能不全は社会を脅かす。
- (9) イノベーション (Innovation) : テクノロジーに対する敵意は社会を脅かす。

となる。このうちの、(1) ~ (8) までは、「難民危機」に端を発した、イスラム圏からの難民流入への脅威を表していると言することができる。すなわち、「難民危機」によってやってきたイスラム教徒(3)の移民が犯罪とテロを引き起こし(2)、ドイツの主導文化(4)を破壊している。また、移民の流入で、ドイツの人口動態が変化し(7)、移民がももとのドイツ人に比べ、あまりに過剰な社会的な措置を受けることで(7)、ドイツの社会保障システムを機能不全に陥れている(8)。そして、「難民危機」はグローバル化によって国境が開放されたことによって起きた(6)。以上の主張がなされている。

(9)の「イノベーション」は、「難民危機」とは直接のつながりがない没落の論拠である。(9)は、「イノベーション」に反対する人々が社会を没落の危機に貶めるという意味を略して「イノベーション」と書かれていると思われる。AfDは、気候変動を明確に否認している。これは、緑の党が主張する気候変動対策が、資源のないドイツに社会に繁栄をもたらす技術革新を妨げるものであるという主張

---

7) 「主導文化という概念は元々、1990年代後半にシリア出身の政治学者バッサム・ティビによって提起されたものである。…(中略)…相対主義的な『多文化イデオロギー』に対する代案として、社会の統合原理としての主導文化概念を提起したのである」(大竹2018: 71)。



に基づいている。

以上が、Lanius (2017) が分析した右翼ポピュリスト政党としての AfD の主張の多層的な論拠(前提)である。これらの論拠が AfD の選挙マニフェストを構成している。Lanius (2017) はさらに、右翼ポピュリズムとみなせる指標として、「言語的形式」(Lanius 2017: 6) に注目することの重要性も指摘している。ただ、右翼ポピュリズム的な「言語的形式」の例として示されているのは、「複合的内容を極端に単純化することおよび『人民に近い』言語を使用すること」(Lanius 2017: 6) だけであり、Lanius (2017) では具体的な言語表現に関する考察をそれ以上は行っていない。

### 3. 「ドイツ連邦議会議員演説コーパス 2017～2020」

その点も踏まえて以下では、2017年の連邦議会選挙後に開催された連邦議会で AfD の議員たちが行った演説文に関して実証的分析を行うことによって、AfD 議員たちが使用した語彙にどのような特徴があり、それが AfD 議員の政治的な思想や戦略とどのように関連付けられるのかを考察したい。

実際の分析に際して基礎とするのは、コーパス言語学の方法論である。本論文でコーパス・データとして使用するの、ドイツ連邦議会議事録データベース<sup>8)</sup>にある第19期連邦議会の第1回会合から第164回会合(2017年10月24日～2020年5月29日)の分の速記議事録である。これらの全164回に及ぶ会合の議事録を発言者の所属政党ごとに分類して、総語数約870万語(8,676,379語)<sup>9)</sup>の「ドイツ連邦議会コーパス2017～2020」(以下、「議会コーパス」)を作成した。議会コーパスのデータ抽出にあたり、議会の議事を進行する連邦議会議長(Präsident des Bundestages)<sup>10)</sup>とその代理を務める副議長(Vizepräsident des Deutschen Bundestages)、また、連邦政府を代表して答弁する連邦首相(Bundeskanzlerin)、連邦大臣(Bundesminister)、政務次官(Parlamentarischer Staatssekretär)、会派を離

8) <https://www.bundestag.de/protokolle> (2020年12月12日アクセス)。

9) 今回用いるコーパスの総語数は、終止符、引用符などの記号を除いたものである。

10) 連邦議会副議長は各会派から1名ずつ選出される慣習がある。しかし、第19期連邦議会では AfD の副議長候補は必要な得票数を得られず、AfD を除く5会派から副議長5名が選出された。( <https://www.bundestag.de/parlament/praesidium#url=L3BhcmxhbWVudC9wcmFlc2lkaXVtL2Z1bmt0aW9uX25ldS9mdW5rdGlvb10yNDUyNDI=&mod=mod530112> ) 参照 (2020年12月12日アクセス)。

脱するなどして、無所属の議員（fraktionslos）の発言は、発言者の党派性を分析する本論文の趣旨に合わない判断し、排除した。したがって、本論文の「議会コーパス」として抽出されているのは、議会または連邦政府に役職を持たない連邦議会議員の発言である。

この議会コーパスは、CDU/CSU、SPD、AfD、FDP、左翼党、緑の党の6党派<sup>11)</sup>の各政党コーパスによって構成され、政党ごとの内訳は以下の通りである。

表1 「ドイツ連邦議会議員演説コーパス 2017～2020」の政党別内訳

| 政党      | 議員演説の総語数 |
|---------|----------|
| CDU/CSU | 約270万語   |
| SPD     | 約175万語   |
| AfD     | 約120万語   |
| FDP     | 約105万語   |
| 左翼党     | 約93万語    |
| 緑の党     | 約103万語   |
| 総計      | 約870万語   |

この「議会コーパス」（約870万語）を参照コーパスとして用いて、「議会コーパス」の一部を構成するAfDの議員演説のコーパス（約120万語）と比較し、他党の議員演説と比べて有意差を持ってAfDに特徴的な語を抽出し、その語彙の分析を行う。分析のための特徴語の抽出には、The IMS Open Corpus Workbench (CWB) を用いた。CWBとは、「アノテーションが付いた大規模なテキスト・コーパス（1000万語から20億語）を管理・検索するためのオープンソース・ツールの集積体」である<sup>12)</sup>。

11) 2017年ドイツ連邦議会選挙の得票議席順に並べた。全709議席中CDU/CSU 246議席、SPD 153議席、AfD 94議席、FDP 80議席、左翼党 69議席、緑の党 67議席。

12) <http://cwb.sourceforge.net/>。(2020年12月12日アクセス) CWBによる分析について詳しくは、Scharloth/ Bubenhofer (2011)を参照。

参照コーパスである「議会コーパス」(約 870 万語)と「AfD コーパス」(約 120 万語)では、母集団<sup>13)</sup>の数量が異なるため仮説検定を行う。今回の分析では、ある語のコーパス間の頻度の差に統計的に「意味のある差」があるのかを確認するために、CWB 上で仮説検定を行った。今回の仮説検定の際に、判断の基準となる統計検定量には対数尤度比統計量(Log-likelihood Ratio, LLR)を用いた<sup>14)</sup>。仮説検定では、検定の最初にコーパス間に「差がない」という帰無仮説をたて、帰無仮説が成り立たない場合「差は有意」と結論する。その判断の基準になるのが、有意水準である。 $p < 0.0001$ のレベルで、境界値は 15.13 である(Rayson 2003:109を参照)。今回の分析では、LLR が 0.01% 水準の棄却値 15.13 を越える語を特徴語とみなす。

また、抽出された特徴語のいくつかについては、その語とともに使われる共起語の分析も行う。

コーパス言語学では、機械的に抽出された連鎖の重要度を評価するため、計量指標を使用する場合があります。使用される指標は、共起頻度に基づくもの、共起強度に基づくもの、共起有意性に基づくものがあります。(石川 2012 : 124)

とあるように、共起を測る指標には様々ある。今回の分析では、共起有意性<sup>15)</sup>を測定することで、共起語の重要性を測定する。共起有意性の測定にも、対数尤度比、t スコアなどの評価方法があるが、本論文では、対数尤度比を用いる。

#### 4. AfD の言語的特徴と言語的戦略

AfD 議員の演説文の特徴語を上位 50 語でまとめると、次の表 2 のようになる。<sup>16)</sup>

- 
- 13) 「母集団 (population) とは、研究・調査で対象となる人全体」(島田、野口 2017 : 37)。今回の場合は、議会コーパスと AfD コーパスのそれぞれである。
- 14) 仮説検定には、他にカイニ乗検定などもあるが、「言語データ、とくに語彙頻度データの特異性の 1 つは、話の出現頻度がきわめて低いことである。たとえば、英語の場合ほとんどの語の出現頻度は 100 語中 1 語以下である。ピアソンのカイニ乗検定はこのような低頻度の事象には向いておらず、対数尤度比検定を用いたほうが適切であるという指摘がなされている」(石川・前田・山崎編 2010 : 67) ため、対数尤度比を用いた。
- 15) 「観測された共起が、偶然による共起確率を超えて、真に意味のあるものになっているかどうかを確認しようとするもの」(石川 2012 : 128)。
- 16) 表の示し方については、高田博行 (2011) を参考にした。

表2 AfDの特徴語（上位50語）<sup>17)</sup>

|    | Lemma                  | F: AfD | F: ALL | LLR     |    | Lemma                 | F: AfD | F: ALL | LLR    |
|----|------------------------|--------|--------|---------|----|-----------------------|--------|--------|--------|
| 1  | AfD                    | 9267   | 20666  | 7343.10 | 26 | Politik (政治)          | 919    | 4428   | 111.57 |
| 2  | Bürger (市民)            | 1303   | 4053   | 592.72  | 27 | illegal (不法な)         | 168    | 424    | 110.75 |
| 3  | deutsch (ドイツの)         | 2654   | 11900  | 437.39  | 28 | Asylbewerber (亡命志願者)  | 125    | 255    | 110.73 |
| 4  | Regierung (政府)         | 1090   | 3789   | 388.01  | 29 | gar (まったく)            | 1246   | 6434   | 106.11 |
| 5  | Merkel (メルケル)          | 427    | 903    | 361.51  | 30 | Gott (神)              | 243    | 781    | 103.21 |
| 6  | Deutschland (ドイツ)      | 3306   | 16797  | 308.38  | 31 | mal (まあ、ちょっと)         | 1838   | 10139  | 102.78 |
| 7  | EU                     | 697    | 2305   | 278.29  | 32 | circa (およそ)           | 171    | 459    | 102.04 |
| 8  | Volk (国民、人民)           | 315    | 681    | 259.15  | 33 | Ahnung (不安)           | 149    | 368    | 101.55 |
| 9  | ideologisch (イデオロギー的な) | 249    | 470    | 241.95  | 34 | EZB (欧州中央銀行)          | 153    | 396    | 96.92  |
| 10 | Migrant (移民)           | 237    | 478    | 212.91  | 35 | danke (ありがとう)         | 434    | 1788   | 96.35  |
| 11 | Steuerzahler (納税者)     | 331    | 864    | 206.85  | 36 | Sozialismus (社会主義)    | 116    | 250    | 95.81  |
| 12 | Altpartei (旧政党)        | 136    | 159    | 206.23  | 37 | nichts (何も～ない)        | 1280   | 6765   | 95.04  |
| 13 | sogenannt (いわゆる)       | 577    | 2293   | 143.36  | 38 | wert (価値のある)          | 308    | 1135   | 94.65  |
| 14 | Partei (政党)            | 578    | 2299   | 143.23  | 39 | selbst (自身)           | 872    | 4353   | 89.09  |
| 15 | links (左翼の、左翼党)        | 287    | 864    | 139.25  | 40 | Kosten (費用)           | 409    | 1723   | 84.35  |
| 16 | oh (おお)                | 265    | 770    | 137.51  | 41 | Brüssel (ブリュッセル)      | 162    | 472    | 83.64  |
| 17 | Deutsche (ドイツ人)        | 282    | 859    | 133.70  | 42 | Steuergeld (税金)       | 153    | 438    | 81.59  |
| 18 | sozialistisch (社会主義の)  | 129    | 236    | 129.84  | 43 | sollen (～するべきである)     | 3024   | 18156  | 80.79  |
| 19 | Ideologie (イデオロギー)     | 158    | 350    | 125.83  | 44 | schämen (恥じる)         | 121    | 306    | 79.51  |
| 20 | eigen (自身の)            | 902    | 4226   | 124.10  | 45 | nun (今や)              | 954    | 4949   | 79.11  |
| 21 | peinlich (つらい)         | 176    | 429    | 122.36  | 46 | links-grün (左翼党と緑の党の) | 56     | 72     | 78.83  |
| 22 | keine (～ない)            | 3909   | 23145  | 120.65  | 47 | Quatsch (馬鹿馬鹿しいこと)    | 211    | 725    | 77.17  |
| 23 | angeblich (自称の)        | 209    | 588    | 115.00  | 48 | Mikrogramm (μg)       | 80     | 152    | 77.14  |
| 24 | Unsinn (ばかげている)        | 228    | 675    | 114.23  | 49 | offenbar (明らか)        | 169    | 525    | 77.03  |
| 25 | also (したがって、では)        | 1574   | 8374   | 112.20  | 50 | sogar (それどころか)        | 601    | 2863   | 76.84  |

表2には、1位から50位まで語がAfD議員演説に特徴的な語<sup>18)</sup>として並んでいる。11位までにAfD(第1位)、Bürger「市民」(第2位)、Regierung「政府」(第4位)、Merkel「メルケル」(第5位)、EU(第7位)、Volk「人民」(第8位)、Migrant「移民」(第10位)、Steuerzahler「納税者」(第11位)、Altpartei「旧政党」(第12位)、Asylbewerber「亡命志願者」(第28位)、EZB「欧州中央銀行」(第34位)などの人や政党、政府、機関を表す語がある。

## 4.1 議場における二項対立

### 4.1.1 「私たち」(市民・国民)

表2に挙げたAfDの特徴語について考察を進めていこう。まず、Bürger「市民」の用法について考察する。DUDEN(1999)でBürgerをひくと、次のような語義説明がある。

17) 表中に使われる、Lemmaは「表記形における各種の活用形(inflected form)を基本形(base form)に集約した」(石川2012:140)語の形である。CWBのLemma化されたデータでは冠詞は女性形で示される。表中のFはFrequenz(頻度)を示す。F:AfDはAfDコーパスで用いられた頻度、F:Allは議会コーパス全体(参照コーパス)で用いられた頻度を示す。

18) 前置詞は除いた。

1. a) Angehöriger eines Staates 「国家の構成員」  
b) Einwohner einer Gemeinde 「市町村の住人」
2. Angehöriger des bestimmten Traditionen verhafteten Mittelstandes 「特定の伝統と結びついた中間階級の構成員」

Bürger は、これを見る限り、血統や民族といった民族主義的、国粋主義的なイデオロギーを含んでいる語には見えない。Bürger は近代ドイツ思想で重要な意味合い *bürgerliche Gesellschaft* 「市民社会」との関わりを持つ語である。カント (Immanuel Kant) は、Staat 「国家」を定義したうえで、Bürger<sup>19)</sup> が国家を構成する自立した政治的主体である Staatsbürger であると定義した(谷 2012 : 8-10 参照)。Langenscheidt (1998) でも、Bürger は「ある国の市民権を持っている人」(jemand, der die Staatsbürgerschaft eines Landes besitzt) のように、権利を有する人として説明されている。またカントは、Weltbürger<sup>20)</sup> という概念を提唱し、コスモポリタニズムの思想に大きな影響を与えた。したがって、Bürger という語は世界市民的な意味合いを含んだ語にもなっている(高田 2007 : 291 参照)。

では、AfD の議員は、Bürger をどのような意味合いで使っているのだろうか。表 3 は、AfD 議員が演説中で用いた Bürger の前方 1 語について共起有意性が高い語を並べたものである。

---

19) カントの著作 *Zum Ewigen Frieden* を日本語訳した宇都宮芳明は、Bürger 単体で「市民」、Staatsbürger を「国民」としている。(カント 1985) 参照。

20) 「世界市民」と訳される。すべての人間は世界中を訪問し、その地の住民と交流できる権利を有している、とした。(カント 1985 : 29) 参照。

表3 Bürgerの共起語（前方1語、上位10語）<sup>21)</sup>

|    | <i>Lemma</i>          | <i>Frequenz</i> | <i>LLR</i> |
|----|-----------------------|-----------------|------------|
| 1  | die（定冠詞）              | 640             | 396.14     |
| 2  | unser（私たちの）           | 112             | 365.89     |
| 3  | lieb（親愛なる）            | 62              | 272.36     |
| 4  | deutsch（ドイツの）         | 37              | 75.67      |
| 5  | mündig（一人前の）          | 9               | 75.52      |
| 6  | eine（不定冠詞）            | 4               | 70.19      |
| 7  | eigen（自身の）            | 19              | 52.34      |
| 8  | normal（一般の）           | 9               | 49.77      |
| 9  | unbescholten（品行方正な）   | 5               | 47.60      |
| 10 | steuerzahlend（納税している） | 5               | 43.23      |

定冠詞 *die*、*unser* 「私たちの」、*Bürger* 「ドイツの」、*mündig* 「成熟した」、*eigen* 「自身の」、*normal* 「一般の」、*unbescholten* 「品行方正な」、*steuerzahlend* 「納税している」などあるが、まず注目したいのは、*mündig* 「一人前の」との共起関係である。実際の用例には、次のようなものがある。

Wir von der AfD sehen auch in einem Arbeitslosen einen **mündigen Bürger**, einen Menschen, der Anspruch auf wertschätzende Behandlung hat. (引用文中のゴシックによる強調は筆者による。以下同様。)

私たち AfD は、失業中の人であっても、（思慮分別のある）一人前の市民、丁寧な対応を要求する権利を持つ人々とみなします。(Jörg Schneider (AfD), 42. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 28. Juni 2018)

こうして、AfD は、「丁寧な対応」がなされるべき「（思慮分別のある）一人前の市民」の「利益代弁者」と主張している。AfD が *mündige Bürger* という表現にこだわる理由の手がかりになるのが、*Wutbürger* 「怒れる市民」という概

21) 動詞、前置詞は除外した。

念である。

Wutbürger は、2010年の「今年のことば」(Wort des Jahres)に選ばれた語である。政治的なりベラル側<sup>22)</sup>はこの語を、「既存政党・体制に反発して異議申し立てを行う保守層とそれによる抗議活動」(佐藤 2017: 10)を非難する意味で用いる。そもそも、この語は同年の「ザラツィン論争」から生まれた。「ザラツィン論争」とは、ドイツ連邦銀行理事のティロ・ザラツィン(Thilo Sarrazin)が自著『ドイツは自滅する』(*Deutschland schafft sich ab*)の中でムスリム系移民増加に疑似生物学的<sup>23)</sup>な警鐘をならしたことで始まった政治的な論争である(大竹 2017: 67 参照)。Wut「怒り」という語は直情的で激しい怒り、また猛威を示す語だ。したがって、Wut と Bürger とを結びつけることで、思考をすることなく感情で動く市民というような否定的な意味をもつ語になる。右翼過激派やネオナチの研究で知られる社会学者のホイスラーとレーザーは、「AfD は、感情的な政治的情熱を結びつけるという点において、それは文字通り、右翼の怒れる市民党(rechte Wutbürger-Partei)と特徴付けることができる」(Häusler/ Roeser 2018: 9-10)と記し、Wutbürger と AfD の結びつきを示唆している。

「怒れる市民」という語でリベラル側から否定されている人々は、自分たちが「(思慮分別のある)一人前」の市民として明確に位置づける必要があると考えられる。実際に、「デモでは、『嘘つきメディアと王道メディア』(Mainstreampresse)、『人民の代弁者にとって代わった人民の背信者』、『私たちは(思慮分別のある)一人前の市民だ』といった話が出た」(Geiges/ Marg/ Walter 2015: 11)という記述もある。つまり、抗議する市民を否定的に位置づける Wutbürger という語に対抗して、mündige Bürger が抗議する市民を肯定的に位置づける語として機能している。AfD という政党自体も、ホイスラーが述べた通り、Wutbürger-Partei 「怒れる市民党」とみなされている。

また、normal 「ふつうの」と結びついた用例にも興味深い点がある。

22) 2010年4巻の『シュピーゲル』でジャーナリストのクルビュヴァイト(Dirk Kurbjuweit)が呼んだ。佐藤(2017: 10)参照。

23) ザラツィンは『知能は50～80%までは遺伝』といった言葉や後のインタビューで『ユダヤ人の有能さ』に言及するなど、一部生物学的人種論に踏み込んだ(佐藤 2017: 11)。

Wir sind die Einzigen, die überhaupt noch Arbeitnehmer- und Sparerinteressen und die Interessen **normaler Bürger** vertreten...

私たちは、被雇用者と貯蓄者の利益とふつうの市民の利益を代弁する唯一の存在です… (訳・強調筆者) (Dr. Harald Weyel (AfD), 156. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 23. April 2020)

「もちろん、ペギーダ、バッハマン、エルテルやヤーンの顔は、彼らがデモの参加者に投影し、同時に彼らの要求の正当性を理由付ける自己形容『ふつうの市民』として現れる。」(Geiges/ Marg/ Walter 2015: 11) とあるように、**normale Bürger** という表現は「怒れる市民」運動でも用いられている。「ふつうの市民」であるから私たちは正しいのだと主張するようにも見える。

次に、AfD 議員の演説に見られる特徴語の第 8 位である Volk 「国民、人民」という語の使用例に注目してみよう。

Sie haben geschworen, liebe Minister, Schaden vom **deutschen Volk** abzuwenden. Halten Sie sich daran! Zuwanderungssteuerung gehört auf die nationale Ebene, nicht auf die europäische.

親愛なる大臣の皆さん、あなたがたは**ドイツ国民**の被害を防ぐと誓いました。その約束を守ってください。移民のコントロールは国家レベルで必要なもので、ヨーロッパレベルで必要なものではありません。(訳・強調筆者) (Norbert Kleinwächter (AfD), 26. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 19. April 2018)

Sie machen keine Politik für **das Volk**, sondern spielen eine Bevölkerungsgruppe gegen eine andere aus.

あなたは、**国民**のための政治を行っていません。住民のなかの一つの集団の人たちを別の集団の人たちと争わせて、漁夫の利を得ているのです。(訳・強調筆者) (Martin Sichert (AfD), 17. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 1. März 2018)

AfD の議員は、上の 2 つの演説文のように、大臣 (政府) や、AfD と対立する勢力を批判する場合に Volk 「国民」を引き合いに出している。これは、大臣 (政



府)や、AfDと敵対する勢力が Volk のために政治を行っておらず、我々 AfDこそが「国民」の意思を代弁していると主張していることになる。また、AfDは2017年の選挙マニフェストに「国民が再び主権者にならねばならない」という見出しを付けて、「ドイツの隠された主権は、既成政党において構築された小規模で強力な寡頭制である」(AfD 2017: 10)と断じ、Volkに主権を取り戻すべきであると主張している。

東ドイツの1989年の反政府月曜デモでは、„Wir sind das Volk“「われわれこそ国民(人民)である」というスローガンが用いられた。この際のVolkは、東ドイツのドイツ社会主義統一党(SED)政権が国民(人民)の意思を代表しておらず、それに対して、デモ隊は自分たちこそが国民(人民)の意思を代弁しているということを示すために用いられた。このような経緯から、「国民(人民)」の意思を示すうえで、Volkは歴史的にも政治的にも重要な語となっている。

特徴語11位のSteuerzahler「納税者」についても、AfDがその代弁者の側に立っているという旨の表現がなされている。

Wir reden heute über die sachgerechte Verwendung des uns vom deutschen **Steuerzahler** anvertrauten Geldes.

私たちは本日、ドイツの**納税者**から私たちに預けられたお金の正しい使い道について語っているのです。(訳・強調筆者)(Dr. Götz Frömming (AfD), 33. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 17. Mai 2018)

Die **Steuerzahler** bluten zusätzlich mit dem Abschmelzen ihrer Ersparnisse für die Zinsersparnis, die sich der Staat über die Null- und Negativzinspolitik der EZB ermöglicht.

国が欧州中央銀行のゼロ金利・マイナス金利政策を理由にして行っている利子節約のために貯蓄が溶解してしまい、**納税者**はさらに血を流しています。(訳・強調筆者)(Dr. Alice Weidel (AfD), 32. Sitzung, Berlin, Mittwoch, den 16. Mai 2018)

このようなSteuerzahlerの使用法から、AfDはSteuerzahlerの立場にいて、Steuerzahlerの意思を代弁し、「欧州中央銀行」EZBに対峙していると解釈できる。

先に挙げた、表 3 の Bürger の共起語にも、「納税している」を示す steuerzahlend が 5 例ではあるが、存在している。次のような発言である。

Die Gefräßigkeit des Staates gegenüber seinen **steuerzahlenden Bürgern** zeigt sich insbesondere an folgenden Zahlen: Laut einer Kurzexpertise der Initiative Neue Soziale Marktwirtschaft ist das Aufkommen aus der Einkommensteuer seit 2005 um satte 84 Prozent gestiegen, während die Lohnsumme nur um 41 Prozent gestiegen ist – also um weniger als die Hälfte – und das Einkommen pro Kopf gar nur um 20 Prozent.

納税する市民に対するこの国のがめつさは、とりわけ次の数字に表れています。新社会市場経済イニシアチブのレポートによると、所得税による税金は 2005 年から 84 パーセントも上昇していますが、その間の所得額は、その半分にも満たない 41 パーセントしか上昇しておらず、一人当たりたったの 20% です。(訳・強調筆者) (Stefan Keuter (AfD), 121. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 24. Oktober 2019)

この用法も、納税者の所得が増えない中で潤沢な税金を確保する国、すなわち「政府」と「納税する市民」を対比させ、「政府」を批判することによって、steuerzahlende Bürger「納税する市民」の意思を代弁しているものと解釈できる。

次に、特徴語第 15 位の Partei については、その共起関係に注目すると興味深いことが見えてくる。表 4 は、Partei という語とその直前（前に 1 語）の語の共起関係を示している。

表 4 : Partei の共起関係 (前方 1 語、上位 10 語)

|    | <i>Lemma</i>                 | <i>Frequenz</i> | <i>LLR</i> |
|----|------------------------------|-----------------|------------|
| 1  | ihr (あなたがたの)                 | 62              | 172.66     |
| 2  | bürgerlich (市民の)             | 17              | 145.77     |
| 3  | einzig (唯一の)                 | 16              | 89.21      |
| 4  | demokratisch (民主主義の)         | 14              | 86.17      |
| 5  | andere (別の)                  | 26              | 85.20      |
| 6  | etabliert (既成の)              | 8               | 81.67      |
| 7  | alle (すべての)                  | 32              | 75.78      |
| 8  | freiheitlich (自由の)           | 8               | 61.73      |
| 9  | kommunistisch (共産主義の)        | 7               | 56.44      |
| 10 | sozialdemokratisch (社会民主主義の) | 5               | 45.06      |

表 4 でわかるように、Partei は bürgerlich 「市民の」と einzig 「唯一の」と強い結びつきがある。実際の演説文における例は、以下の文である。

Aber Sie wissen natürlich genau, dass die AfD nicht nur eine bürgerliche Partei, sondern sogar die **einzig**e bürgerliche **Partei** in diesem Bundestag ist.

しかし、あなたは、AfD が単に市民の政党であるだけでなく、それどころかこの連邦議会における**唯一の市民の政党**であることをもちろんよく知っているはずだ。(訳・強調筆者) (Stephan Brandner (AfD), 77. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 31. Januar 2019)

Wir sind die **einzig**e **Partei**, die sich für den deutschen Beitragszahler einsetzt.

私たちは、ドイツ人の保険料負担者のために力を尽くす**唯一の政党**です。(訳・強調筆者) (Detlev Spangenberg (AfD), 44. Sitzung, Berlin, Dienstag, den 3. Juli 2018)

Bürger、Volk、Steuerzahler といった AfD の議員演説の特徴語は、AfD が代弁する「市民」の姿を明示する役割で用いられている。そして、AfD は「市民」の代弁ができる **einzig**e Partei 「唯一の党」であるというわけである。

#### 4.1.2 「あなたがた」(旧政党)

特徴語のなかの **Regierung**「政府、政権」(第4位)、**Merkel**「メルケル」(第5位)について考察してみよう。AfD 議員は、他党議員と比べてこの二つの語を、相当な有意差<sup>24)</sup>をもって多用している。AfD 議員は、どのような言い回しで「メルケル政権」について語っているのだろうか。

Es kann nicht sein, dass die **Merkel-Regierung** – formal nur geschäftsführend – wichtige Entscheidungen trifft und vollendete Tatsachen schafft, ohne diesen Bundestag einzubeziehen.

メルケル政権が、形式的には暫定的でしかないにもかかわらず、この連邦議会を加えずに重要な決定を下し既成事実を作ることは、受け入れることができません。

(訳・強調筆者) (Martin Hebner (AfD), 4. Sitzung, Berlin, Dienstag, den 12. Dezember 2017)

Dieser Haushalt drückt das ganze Elend und die Beliebigkeit der **Merkel-Ära** aus, der wohl dunkelsten Kanzlerschaft, die Deutschland erlebt hat.

この予算は、メルケル時代、すなわちドイツが経験した中でおそらくは最も暗黒の首相の時代の、あらゆる惨めさと恣意性を表しています。(訳・強調筆者)

(Kay Gottschalk (AfD), 46. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 5. Juli 2018)

このように、**Merkel** と **Regierung** という語は批判的な文脈で使われている。

Es ist nicht nachvollziehbar, warum **die EU** und **die Bundesregierung** trotz der zum Teil offen vereinbarungswidrigen Handlungen und Unterlassungen Griechenlands nur lapidare Feststellungen aus den Fakten ableiten.

ギリシャの行動と不作為が一部明らかに合意に反するものであったにもかかわらず、なぜ EU と連邦政府がさまざまな事実から急場しのぎの合意しか引き出せなかったのか理解できません。(訳・強調筆者) (Peter Boehringer (AfD), 99. Sitzung, Berlin, Freitag, den 10. Mai 2019)

---

24) **Regierung** が LLR+388.01、**Merkel** が LLR +361.51 となっている。

与党への対決姿勢を示すなかで、野党の立場にある議員たちが **Merkel** と **Regierung** を多用するのは自明のここのように思える。しかし、分析してみると、AfD の議員は他の野党 (FDP、左翼党、緑の党) の議員と比べて顕著な有意差を持って頻繁に、**Merkel** と **Regierung** という語を使用していることが判明する。AfD のコーパスを他の野党 3 党 (FDP、左翼党、緑の党) のコーパス (つまり、今まで用いてきた参照コーパスから、与党の CDU/CSU と SPD の議員の演説を抜いたもの) と比較し有意差検定を行うと、**Regierung** という語については LLR が +224.66 (野党全体 2563 回中 1090 回)、**Merkel** という語については LLR が +253.76 (野党全体 757 回中 425 回) であり、明らかに他の野党に比べ AfD が **Regierung** と **Merkel** を顕著に頻繁に引き合いに出している。

AfD 議員は、そもそも演説において自党以外を全否定する。それを明示するのが、特徴語第 10 位の **Altpartei** 「旧政党、旧態依然の政党」である。

Frau Merkel – sie glänzt durch Abwesenheit – hat mit ihrer CDU im Gleichschritt mit allen **Altparteien** die Sicherheit und die Außengrenzen unseres Landes einem nebulösen Multikulti-Unsinn geopfert.

メルケル氏は、いないことで輝くわけですが、彼女は CDU とすべての旧政党と歩調を合わせて、わけのわからない多文化のナンセンスのために我が国の安全保障と国境を犠牲にしました。(訳・強調筆者) (Stephan Brandner (AfD), 4. Sitzung Berlin, Dienstag, den 12. Dezember 2017)

Die Arroganz der **Altparteien** ist auch bei diesem Thema grenzenlos.

旧政党の傲岸は、このテーマにおいても際限がありません。(訳・強調筆者)  
(Jürgen Braun (AfD), 29. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 26. April 2018)

Ist es Angst? Ist es Neid? Was auch immer: Wenn es gegen die AfD geht, sind die **Altparteien** sich schnell einig.

それは恐怖か、それは嫉妬か。どちらであったとしても、AfD に対抗するような場合は、旧政党はすぐにまとまります。(訳・強調筆者) (Dr. Bernd Baumann (AfD), 52. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 27. September 2018)

これは、AfD 以外の政党に対して「旧政党」というレッテルを貼ることによって、AfD がこれまでの既存政党と違う存在であるという意味合いを強調する表現になっている。Ihre Partei「あなたがたの政党」という表現も、よく見られる。

Und Sie – das war Ihre Politik, Ihre Regierung, **Ihre Partei** – haben die Migranten nach Deutschland gelassen.

そしてあなたがたは、それがあなたがたの政治、あなたがたの政府、**あなたがたの政党**だったわけですが、ドイツへの移民を許したのです。(訳・強調筆者)

(Petr Bystron (AfD), 68. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 29. November 2018)

AfD の議員にとって、特徴語第 3 位の EU も「自分たち以外」の「あなたがた」の典型である。EU は、次の引用文にあるように、**verrottet**「墮落した」、**bürokratisches Monster**「官僚主義（高級官僚）の怪物」といった語とともに、AfD の議員の演説で用いられる。

Wir brauchen keinen Robin Hood für Flüchtlinge, wir brauchen keinen Herold für eine mittlerweile moralisch und innerlich **verrottete EU** und auch keinen Schutzpatron für eine hinfällige Währung.

私たちは、難民のためにロビンフットを必要としませんし、今では道徳的にも内的にも腐敗した EU のために連絡官も必要としません。また、老衰した通貨体制のために守護聖人も必要ありません。(訳・強調筆者) (Kay Gottschalk (AfD), 34. Sitzung, Berlin, Freitag, den 18. Mai 2018)

Sie schaffen hier eigentlich nur ein **bürokratisches EU-Monster**, das gefüttert und am Leben erhalten werden soll, damit viele Beamte in der BaFin oder der EU ein nettes Plätzchen haben.

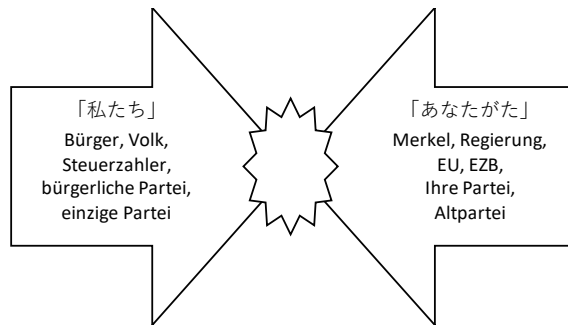
あなたがたは、多くの公務員が金融監督庁や EU で居心地のいいポストに就くために、餌付けされ、生かされ続ける**官僚主義の EU モンスター**を作るだけではありませんか。(訳・強調筆者) (Kay Gottschalk (AfD), 36. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 7. Juni 2018)

このように、かなり苛烈なことばで EU が批判されているのがよくわかる。AfD は、敵対関係にある他党や EU に対して、「あなたがたの」党、「旧政党」、「腐敗した EU」という表現を用いることで、AfD がそのような政党、EU とは違うということを明示している。

以上のように、AfD の議員は、bürgerliche Partei 「市民の政党」、einzigste Partei 「唯一の政党」という表現を「私たちの」政党のポジティブな特徴づけに用いる一方で、Altpartei 「旧政党」という語を「あなたがたの」政党のネガティブな特徴づけに用いている。

先に挙げた表 2 では、AfD の議員演説の特徴語として、AfD、EU、Merkel、Bürger、Volk、Regierung、Altpartei、Steuerzahler などの人や政府を表す語が並んでいた。これらは、すでに上で考察したことからわかるように、「私たち」と「あなたがた」との対立のなかで、AfD から見て「味方」を表す AfD、Bürger、Volk、Steuerzahler と、「敵」を表す EU、Merkel、Regierung、Altpartei とにわかれていたことになる。つまり、二項対立的に使用される語が特徴語の上位に入っていたことになる。これを図式に表すと、次の図 4 のようになる。

図 4 AfD の特徴語から見える二項対立関係



それでは、この AfD の特徴語に現れた二項対立関係はどのように解釈すればよいのだろうか。その鍵となるのが、本論文の副題に示した「ポピュリズム」という概念である。ポピュリズムの研究で知られるプリンストン大学教授のヤン＝ヴェルナー・ミュラーによれば、ポピュリズムとは「自分たちが、それも自分たちだけが、人民を代表すると主張する」(ミュラー 2017: 27) 政治的な考え方で

ある。ポピュリストは、「自分たち」だけが一般の人民の意思を代弁し、「自分たち」にとって「自分たち以外」は人民の敵であり排除しようとするという。すなわち、ポピュリズムは「自分たち」と「自分たち以外」の二項対立の関係になる。そして、この「ポピュリズム」の考え方は上の図の特徴語から見みえる「私たち」と「あなたがた」の二項対立関係と重なって見える。

これらの特徴語の二項対立的関係は、「ポピュリストが権力を持たねばならない」というポピュリズムの最終的な結論を支える「救済」の構造（2.2.の図2を参照）にも当てはまる。AfDだけが *Bürger*、*Volk*、*Steuerzahler* ら「人民の意思を実現しよう」とし、その結果「社会は救済される」のであるのに対して、*Merkel* や *Regierung* などの *Altpartei* や EU、EZB は社会の救済という「人民の意思が実現されるのを阻む」ということになる。社会を救済する存在は、*einzigste Partei*、*bürgerliche Partei* である AfD であり、人民の意思の実現を阻む存在が *Altpartei*、*Regierung*、*Merkel*、EU、EZB という言語表現によって言い表される。つまり、AfD 議員は AfD 議員の演説の特徴語として抽出されたこれらの言語表現を用いることで、「人民の意思の実現」を可能にするグループと阻むグループとに分断している。したがって、今あげたこれらの一連の言語表現こそが、Lanius (2017) が注目すべきだとした、ポピュリズムの指標となる「言語的形式」であると言えよう。有権者・支持者にアピールするための言語的戦略として、二項対立図式が機能している。

ただし、連邦議会での演説という場面において、AfD 議員たちが注意深く使用を控えているように見える事例がある。それは、*Lügenpresse* 「嘘つきメディア」という語である。AfD の選挙マニフェストでは、「人民の意志が実現されるのを阻む」存在として「旧政党」と EU と並んで「嘘つきメディア」が明確に挙げられている（2.2.を参照）にもかかわらず、この語は AfD 議員の演説中には一回しか現れず、しかもその存在を否定する文のなかで用いられている。

Meine Damen und Herren, im Kosovo beispielsweise ist laut Medienberichten – und wir wissen ja, die Medien sagen nur Wahres; „**Lügenpresse**“ gibt es ja nicht – inzwischen ein tiefgreifender Mangel an medizinischen Fachkräften entstanden.

皆さま、例えば Kosovo では、メディアの報道によれば一皆さまご存知のとおり、



メディアは真実だけを伝え、「嘘つきメディア」などというものは存在しないわけでは—今では深刻な医療専門家不足が発生しました。(訳・強調筆者)<sup>25)</sup>

(Detlev Spangenberg (AfD), 152. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 12. März 2020)

Lügenpresse「嘘つきメディア」という語は、「西洋のイスラム化に反対する欧州愛国者 (PEGIDA)」の活動家たちが多用するスローガンで、2014年に「その年の粗悪語」(Unwort des Jahres)に選ばれている。そもそも、ナチス体制下のドイツでも用いられたナチ語彙である(高田 2019: 132-133 参照)。そのため、AfD議員は連邦議員としての批判を警戒して、「旧政党」とEUの場合とは違い避けたものと考えられる。『嘘つきメディア』などというものは存在しない」という否定文も、よく見れば皮肉のようにも取れる。AfDのテューリンゲン州議会議員ヘッケ(Björn Höcke)の演説と自身のFacebookでもこの語はきわめて出現が少なく、しかもFacebookでの3回の使用と演説での4回の使用はいずれも第三者の発言の引用として距離を置いた立場を示している(高田 2019: 133 参照)。

#### 4.2「いわゆる」による「あなたがた」の否認と相対化

これまで見てきたBürger、Steuerzahler、Regierung、Altpartei等といった語に政治性が見て取れるのは不思議なことではないだろう。また、右翼政党とされるAfDに、特徴語としてdeutsch「ドイツの、ドイツ人の」という形容詞があるも予想可能なことであろう。しかし、一見して政治性が見て取れない語であるにもかかわらず、二項対立で政治的議論が行われる際に重要な役割を果たしている形容詞の存在に気づいた。それは、特徴語第13位のsogenannt「いわゆる」という形容詞である。

sogenanntをLangenscheidt(1998)で引くと、「1. 誰か/何かが後続の名称に値しないことを表現するために使われる」(1. verwendet, um auszudrücken, dass jemand/etwas die nachfolgende Bezeichnung nicht verdient.)「2. 後続の名称が新しいもので、特定の人々によって使用されていることを表現するために使われる」(2. verwendet, um auszudrücken, dass die nachfolgende Bezeichnung neu ist und von

25) AfDは、外国からの医療従事者を労働力として受け入れる施策に対して、送り出し国であるコソボの様子を引き合いに出して反対している。

bestimmten Leuten verwendet wird) とある。すなわち、sogenannt は、話し手が後続の語の適格性について疑念を持っているもしくは、後続の語が「特定の人々」によって使用されるものとしてその語から距離を置こうとするときに用いられる語である。つまり、後続の語を否認し相対化する意味合いを持つと言えよう。

では AfD の議員は、この *sogenannt* をどの語の前に用いているのだろうか。表 5 は、*sogenannt* というの語とその直後（右に 1 語）に現れる語との結びつきの強固さを表している。

表 5 : *sogenannt* の共起語（後方 1 語、上位 10 位）

|    | <i>Lemma</i>                 | <i>Frequenz</i> | <i>LLR</i> |
|----|------------------------------|-----------------|------------|
| 1  | Flüchtling (難民)              | 22              | 151.42     |
| 2  | Klimaschutz (気候保護)           | 8               | 62.84      |
| 3  | erneuerbar (再生可能な)           | 5               | 54.51      |
| 4  | Energiewende (エネルギー転換)       | 9               | 53.59      |
| 5  | Verkehrswende (モビリティ転換)      | 6               | 51.21      |
| 6  | Zivilgesellschaft (市民社会)     | 5               | 44.24      |
| 7  | Trendwende (トレンド転換)          | 4               | 34.90      |
| 8  | Konsensdemokratie (合意型民主主義)  | 3               | 33.48      |
| 9  | Redispatch-Maßnahmen (再送電措置) | 3               | 32.24      |
| 10 | Asylrücklage (庇護準備金)         | 3               | 28.92      |

まず、Klimaschutz「気候保護」（共起度第 2 位）、erneuerbare (Energien)「再生可能な（エネルギー）」（共起度第 3 位）、Energiewende「エネルギー転換」（共起度第 4 位）という一連の環境に関する語の使用例を見てみよう。

Sie läßt der Bevölkerung riesige Belastungen auf unter dem hehren Vorwand, unsere CO2-Emissionen für den **sogenannten Klimaschutz** senken zu müssen, und sieht ungerührt zu, verlangt sogar mehr von denselben, deren Kosten sich zu riesigen Beträgen – Hunderte Milliarden, bald Billionen – summieren, aber weder eine spürbare Senkung der Emissionen bewirken noch irgendeinen Einfluss auf **das sogenannte**, nur in den Köpfen von Klimaideologen existierende **Weltklima** haben.

あなた方は、いわゆる気候保護のために我々の二酸化炭素の排出を減らさねばならないという崇高な口実の下に住民に大変な負荷を強いて、それを平然と見ています。それどころか、数千億どころか数兆にも上る莫大なコストを求めています。しかし、それは、顕著な排出削減にも、気候イデオロギーに捕らわれた者の頭の中だけにしか存在しないいわゆる地球温暖化にも何らの影響も与えません。

(訳・強調筆者) (Karsten Hilse (AfD), 42. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 28. Juni 2018)

Die Grünen wollen laut ihrem Antrag Planungssicherheit schaffen mittels einer Stromversorgung, die gar nicht planbar ist. Deutschland braucht zur Aufrechterhaltung seines Lebensstandards zwischen 55 und 85 Gigawatt an geregelter Energie. Die **sogenannten Erneuerbaren** lieferten in 2018 aber nur unzureichende 15 bis 75 Gigawatt. 緑の党の提案によると、まったく計画が立たない電力供給を基づいて計画を裏書きしたいということです。ドイツでは生活水準の維持のために、55~85 ギガワットの調整エネルギーが必要です。いわゆる再生可能エネルギーは、2018年でわずか15から75ギガワットしか供給しません。(訳・強調筆者) (Dr. Rainer Kraft (AfD), 80. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 14. Februar 2019)

Es ist nicht schwierig, hier genauso wie bei der **sogenannten Energiewende** Billionenbeträge des volkswirtschaftlichen Vermögens zu verschleudern und damit unser Land ärmer zu machen, als es sein müsste.

ここで、いわゆるエネルギー転換の場合ちょうど同じように何兆もの額の国民経済の財産を浪費し、それにより必要以上に私たちの国を貧しくすることは、簡単なことです。(訳・強調筆者) (Wolfgang Wiehle (AfD), 107. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 27. Juni 2019)

ドイツ連邦政府はホームページのトップページにおいて、ドイツにおけるコロナウイルス、ヨーロッパ、ドイツ統一とならんで重要なテーマの一つとして、気候保護を掲げている。<sup>26)</sup> 気候保護が重要な課題であることを、例えば CDU/CSU

26) <https://www.bundesregierung.de/breg-de/themen> (2020年12月12日アクセス)

の会派に所属する議員のヴァイスゲルバー（Anja Weisgerber）が連邦議会で次のように語っている。

Wir beraten heute den Haushalt zu einer hervorragenden Debattenzeit, und das ist auch gut so; denn die Themen „Umweltschutz“, „Naturschutz“, „**Klimaschutz**“ sind existenzielle, sehr wichtige Themen, auch für uns als Union, um das schon gleich vorweg aufzunehmen.

私たちは、本日じゅうぶんな討議時間をかけて予算について協議をしておりますが、それはとても良いことです。というのも、「環境保護」、「自然保護」、「気候保護」というテーマは根本的で、私たち CDU/CSU にとってもあらかじめ着手しておくためにとても重要なテーマだからです。（訳・強調筆者）（Dr. Anja Weisgerber, 47. Sitzung, Berlin, Dienstag, den 11. September 2018）

これに対して、AfD 議員は「いわゆる気候保護」という表現の仕方によって、地球温暖化などの環境問題の意識を否認もしくは相対化していると考えられる。「いわゆる再生可能エネルギー」、「いわゆるエネルギー転換」についても同様である。

次に、sogenannt との共起関係が一番強い Flüchtling 「難民」について考察してみたい。実際の使用例は、次のとおりである。

Aufgrund der Freizügigkeitsregelung der EU sind zusätzliche Bürger, vor allem aus Osteuropa, zu uns gekommen. Diese sind dazu berechtigt, erhöhen allerdings auch die Nachfrage nach Wohnraum. Sie haben in der letzten Regierung nichts dafür getan, dass sich das verbessert. Aber die heftigste Verwerfung auf dem Wohnungsmarkt hat das Eindringen von über 1,4 Millionen **sogenannter Flüchtlinge** seit 2015 hervorgerufen.

EU の自由移動体制により、特に東ヨーロッパから更なる人々が我々のもとにやってきました。彼らにはその権利がありますが、しかしどうしても住居の需要も上昇します。あなたは、前政権でこれを改善するための施策を打ちませんでした。そして、住宅市場のすさまじい歪みが 2015 年以來の 140 万人のいわゆる難民の流入によって引き起こされたわけです。（訳・強調筆者）（Udo Theodor

Hemmelgarn (AfD), 26. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 19. April 2018)

Für die sind die steigenden Mieten übrigens genauso ein Problem, und auch sie fühlen sich benachteiligt gegenüber **den sogenannten Flüchtlingen**.

ところで、家賃の上昇は彼らにとっても問題です。彼らも、いわゆる難民と比べて冷遇されていると感じています。(訳・強調筆者)(Tino Chrupalla (AfD), 94. Sitzung, Berlin, Mittwoch, den 10. April 2019)

Die aktiven Bürger werden durch die Vernachlässigung der Infrastruktur vom Land und aus den kleinen Städten vertrieben. Zweitens die gewollte Freizügigkeit für Arbeitnehmer und Selbstständige innerhalb der EU. Drittens die enorme Einwanderung von mehr als 1,8 Millionen meist illegaler **sogenannter Flüchtlinge** in unser Land.

活動的な市民は、州のインフラの怠慢によって小さな町から追い出されます。さらには、EU内の求職者のために望まれた移動の自由によって、またさらには、最大180万人以上の不法ないわゆる難民の大量の移民の流入によって追い出されるのです。(訳・強調筆者)(Udo Theodor Hemmelgarn (AfD), 56. Sitzung, Berlin, Freitag, den 12. Oktober 2018)

Duden (1999)でFlüchtling「難民」を引くと、「政治的、宗教的、経済的、または民族的な理由で故国から逃避した人」(Person, die aus politischen, religiösen, wirtschaftlichen oder ethnischen Gründen aus ihrer Heimat geflohen ist)とある。また、Langenscheidt (1998)には、「(特に戦争のために)、自分の国や故郷から離れる、または離れねばならなかった人」(jemand, der (besonders wegen eines Krieges) sein Land, seine Heimat verlässt bzw. verlassen muss)とあり、辞書的な意味を見る限りでは、Flüchtlingは否定的な意味合いが込められた語とは言い難い語である。

外国から移り住んだ人を意味する他の語には、「移民」がある。Migrant「移民」についてはDuden (1999)は、「他の国、他の地域、他の場所に移住する人」(jemand, der in ein anderes Land, in eine andere Gegend, an einen anderen Ort abwandert)と説明している。Flüchtlingの場合と同様に、定義のなかに否定的な意味合いはない。では、AfD議員はどのような文脈でMigrantを用いているのであろうか。この語

との共起語で見ると、表 6 のとおりとなり、illegal「不法な」との結びつきが最も強いことがわかる。

表 6 : Migrant の共起語 (前方 1 語)

|   | <i>Lemma</i>         | <i>Frequenz</i> | <i>LLR</i> |
|---|----------------------|-----------------|------------|
| 1 | illegal (不法な)        | 17              | 154.79     |
| 2 | abgeschoben (追放された)  | 3               | 35.79      |
| 3 | aufgegriffen (逮捕された) | 2               | 25.95      |
| 4 | erkrankt (病気になった)    | 2               | 23.12      |
| 5 | unzählig (無数の)       | 2               | 15.25      |

下の引用文は、AfD 議員が「不法な移民」について語った使用例である。

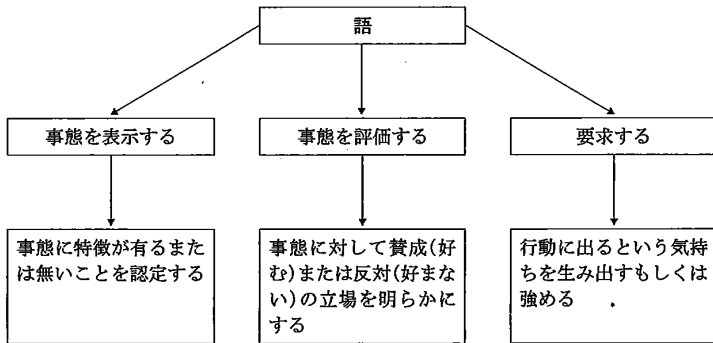
Das Ganze missbraucht die Leistungsfähigkeit der Deutschen für die Wohlfahrt **illegaler Migranten** und dient nicht den Interessen unserer Bürger.

このすべては、ドイツ人の能力を不法な移民のために悪用するもので、私たちの市民の利益には貢献しません。(訳・強調筆者) (Dr. Gottfried Curio (AfD), 163. Sitzung, Berlin, Donnerstag, den 28. Mai 2020)

これを見ると、AfD が意味するところの Migrant は、ドイツ人の利益を損なう存在であると解釈される。本来、Migrant は Flüchtling とは異なり、政治的、宗教的などの理由だけでなく、「職を求めるなど経済的な理由であれどのような理由であれ、自分の意志で故郷を去った人を指す」(野呂 2019 : 196)。AfD の議員は、Flüchtling の前に *sogenannt* を置くことによって、2015 年以来中東からやってきている人々が実際には難民でなく、「不法な移民」であるという認識を暗示していると考えることができよう。

高田 (2019) によれば、政治的立場を示す語は「標榜語」(Schlagwort) と呼ばれる。「標榜語」には、発言者による「表示」、「評価」、「要求」の 3 つの機能がある。

図5：言語記号の諸機能（高田 2019：125）



このモデルに基づけば、sogenannt という語を前に置くことによって、Klimaschutz、Flüchtling という語は政治的な標榜語となり、〈気候を保護すること〉を「表示」するにすぎないはずの Klimaschutz という、標榜語としては〈(リベラル側や政権側が勝手に言うだけで) 私たちはそれを必要だとはみなさない〉という「評価」を示し、さらには〈気候変動に基づいた政策をやめよ〉という「要求」を表していることになる。同様に、Flüchtling という「表示」は、〈リベラル側や政権側が勝手に言うだけで) 不法な移民である〉という「評価」を示すと同時に、〈ドイツに入れるのをやめよ〉という「要求」を表している。こうして sogenannt は、環境問題に関する AfD の否定的な考え方や、難民と呼ばれている人々は不法移民であるという考え方を打ち出す際の決め手となる語であることが判明する。

ドイツ刑法典の第 130 条に、「民衆扇動罪」(Volksverhetzung) という条項がある<sup>27)</sup>。これは、特定の人種、宗教、思想での差別を禁止する法である。これに違反すると検察によって起訴されることもある。PEGIDA の街宣デモ運動では、人種主義的な主張が街頭で繰り返され、この運動を主宰しているバツハマン (Lutz Bachmann) は何度も検察によって民衆扇動罪で起訴されている<sup>28)</sup>。したがって、

27) <http://www.gesetze-im-internet.de/stgb/BJNR001270871.html#BJNR001270871BJNE028206377> (2020 年 12 月 12 日アクセス)

28) <https://www.faz.net/aktuell/politik/inland/lutz-bachmann-pegida-gruender-wegen-volksverhetzung-verurteilt-15503152.html> (2020 年 12 月 12 日アクセス)

ドイツでは、難民を一括りにして「出ていけ」という要求を示すことは法が禁止している。sogeannt と Flüchtling の組み合わせは、この法に明確に違反することなく、「難民」は不法な移民であって（＝評価）、ドイツに入れるのはやめよ（＝要求）という違法となりうる人種主義的な主張を、暗示的に政府や有権者に示す戦略的な語法であるといえるのではないだろうか。そしてこれは、「排外主義」と呼ばれる考え方に由来する。「排外主義」とは、「国家は国民だけのものであり、外国に出自を持つ（とされる）集団は国民国家の脅威であるとするイデオロギー」（樋口 2012 : 2）を意味する。AfD は、元々ドイツには住んでいなかった新参者の難民の存在によって自国民が虐げられていると主張し、sogeannt を戦略的に用いることで「排外主義」を言語化していると言えるだろう。

選挙マニフェストのなかで AfD が示した社会の没落に関わる 9 つの論拠（2.2 を参照）は、AfD 議員が演説において sogeannt を用いて否認し相対化した共起語と重なっている。Flüchtling による「難民危機」が（1）移民、（2）犯罪、（3）イスラム、（4）主導文化、（5）不公平、（6）グローバル化、（7）人口動態、（8）保健システムの問題を「顕在化」させ、Klimaschutz、erneuerbare (Enegien)、Energiewende は（9）イノベーションに関わる環境問題への「過剰な」取り組みの本質となっている。sogeannt という語は、Flüchtling、Klimaschutz、erneuerbare (Enegien)、Energiewende に烙印を押し、（1）から（9）までの社会の「没落の原因」となる事態を阻止せよという要求である。

以上のように、AfD 議員の特徴語のひとつである sogeannt は、Flüchtling、Klimaschutz、Erneuerbaren、Energiewende が表示する事態に関してネガティブな「烙印」を押す機能（高田 2019 : 125 参照）を果たしている。この烙印によって、これらの語が表示する事態が否認され相対化されるのである。そしてまさにその「否認・相対化」は、「わたしたち」の見解と「あなたたち」の見解とという二項が真正面から対立していることに他ならない。sogeannt は、二項対立を間接的に浮き彫りにする言語表現であると言えよう。

## 5. 総括

以上、ドイツ連邦議会（2017年10月24日～2020年5月29日）における AfD 議員の言説の言語的特徴と戦略に関する考察は、次の3点に集約することができ



る。

1. AfD 議員に特徴的な一連の言語表現から、AfD 議員にとっての自陣営（「わたしたち」）を表す言語表現と、AfD 議員が属さない他陣営（「あなたたち」）を表す言語表現とが対峙する二項対立の枠組みを見て取ることができる。その際、自陣営を表す言語表現のなかには、deutsches Volk「ドイツ国民」、deutsche Bürger「ドイツ市民」、mündige Bürger「(思慮分別のある)一人前の市民」、normale Bürger「ふつうの市民」、Steuerzahler「納税者」のように、人民が明確に包含されている。それは、AfD 議員が AfDこそが「人民の意思を実現しよう」とし、「社会を没落から救済する唯一の存在」であると自認しているからである。それに対応して、AfD 議員に特徴的なものとして、die einzige Partei「唯一の政党」、die einzige Bürgerpartei「唯一の市民政党」という言語表現が観察されるのである。その一方で他陣営は大きくは Altpartei「旧政党」という1語で括られ、なかでも Merkel「メルケル」の率いる Regierung「政府」が、「人民の意思が実現されるのを阻む」存在として繰り返し槍玉にあげられる。さらに、EU や EZB「欧州中央銀行」も、人民の意思を代弁しない機関として再三にわたり話題にされる。
2. わずか3音節からなる sogenannt「いわゆる」という形容詞は、少なくとも AfD 議員の言説においてきわめて重要な機能を果たしている。この小さな語は、直後の言語表現が政治的立場を表す「標榜語」であることを予告した上で、話し手がその事態を否定しそこから距離を置く立場にあること（評価）を言い表し、最終的に「その事態をやめよ」と要求する。この一連の意味機能を果たすことで、sogenannt は二項対立を浮き彫りにする。しかも、場合によって狡猾であり得るのは、「いわゆる」と言うことで、発言者自身がその語を使用する場合に、責任を免除されることである。
3. 上の2点で示した AfD 議員の言説の言語的特徴は、AfD がポピュリスト政党として人民の意志を実現して「社会を救済」し、「権力を持つ」に至るといふ最終的目標に行く着くための言語面での戦略を構成している。以上のようにして、AfD は自らの言語表現の特徴のなかにポピュリズム政党としての顔を明確に見せているのである。

## 参考文献

- 石川慎一郎 (2012) 『ベーシックコーパス言語学』 ひつじ書房。
- 石川慎一郎／前田忠彦／山崎誠編 (2010) 『言語研究のための統計入門』 くろしお出版。
- 板橋拓己 (2017) 「変調するドイツ政治—難民危機とポピュリズムのなかで」 日本国際問題研究所『国際問題 = International affairs』 第 660 号、15～24 ページ。
- 大竹弘二 (2018) 「『タブー破り』 とリベラリズムの危機」 日本ドイツ学会『ドイツ研究』 第 52 号、66～76 ページ。
- カント、イマヌエル (1985) 『永遠平和のために』 (宇都宮芳明訳)、岩波書店。
- 佐藤公紀 (2017) 「『怒れる市民』の抗議行動の内実とその論理—AfD とペギーダを例に」 日本ドイツ学会『ドイツ研究』 第 51 号、10～29 ページ。
- 佐藤成基 (2018) 「グローバル化のなかの右翼ポピュリズム：ドイツ AfD の事例を中心法政大学社会学部学会『社会志林』 第 65 巻 2 号、95～115 ページ。
- 高田明宜 (2007) 「コスモポリタニズムの変遷」 国際基督教大学社会科学研究所『国際基督教大学学報・II-B, 社会科学ジャーナル』 第 60 号、287～310 ページ。
- 高田博行 (2011) 「時間軸で追うヒトラー演説—コーパス分析に基づく語彙的特徴の抽出」 学習院大学ドイツ文学会『学習院大学ドイツ文学会研究論集』 第 15 号、89～155 ページ。
- 高田博行 (2019) 「透かし彫りのナチ語彙—AfD 党幹部ビョルン・ヘッケの言説をめぐって高田博行 / 山下仁編著『断絶のコミュニケーション』 ひつじ書房、123～147 ページ。
- 野呂香代子 (2019) 「難民・移民をめぐるコミュニケーション—『対抗する談話』構築のための予備的考察」 高田博行 / 山下仁編著『断絶のコミュニケーション』 ひつじ書房、193～213 ページ。
- 樋口直人 (2012) 「排外主義運動のマイクロ動員過程：なぜ在特会は動員に成功したのか」 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター『アジア太平洋レビュー』 第 9 号、2～16 ページ。
- 星野智 (2015) 「ドイツにおける極右ポピュリスト政党の台頭—AfD をめぐって—」 中央大学社会科学研究所『中央大学社会科学研究所年報』 第 20 号、1～14 ページ。

- ミュラー、ヤン＝ヴェルナー (2017) 『ポピュリズムとは何か』(板橋拓己訳) 岩波書店。
- AfD (2016): *Unser Grundsatzprogramm für Deutschland*.
- AfD (2017): *PROGRAMM FÜR DEUTSCHLAND Wahlprogramm der Alternative für Deutschland für die Wahl zum Deutschen Bundestag am 24. September 2017*.
- Berning, Carl C. (2017): Alternative für Deutschland (AfD) – Germany’s New Radical Right-wing Populist Party. *DICE Report*: München: Leibniz- Institut für Wirtschaftsforschung an der Universität München Vol. 15, Iss. 4, pp.16-19.
- Betz, Gregor/ Brun, Georg (2016): Analyzing Practical Argumentation. In: Hansson, Sven Ove/ Hadorn, Gertrude Hirsch (eds.): *The Argumentative Turn in Policy Analysis*. Cham: Springer International Publishing. pp.39-77.
- Duden (1999): *Duden - Das große Wörterbuch der deutschen Sprache*. Mannheim: Dudenverlag.
- Franz, Christian/ Marcel Fratzscher / Alexander Kritikos (2019): *At opposite poles: How the success of the Green Party and AfD reflects the geographical and social cleavages in Germany*. DIW Weekly Report 34/2019. Berlin: DIW Berlin: S. 290-300.
- Geiges, Lars / Marg, Stine/ Walter, Franz (2015): *Pegida: Die schmutzige Seite der Zivilgesellschaft?* . Bielefeld: Transcript Verlag.
- Gimth, Heiko (2015): *Sprache und Sprachverwendung in der Politik - Eine Einführung in die linguistische Analyse öffentlich-politischer Kommunikation*. Berlin: De Gruyter.
- Häusler, Alexander (2018): Die AfD: Partei des völkisch-autoritären Populismus. In: (Hrsg.): Häusler, Alexander: *Der Rechtsruck in Deutschland und die AfD*. Hamburg: VSA Verlag. S.9-20.
- Häusler, Alexander/ Roeser, Rainer (2018): *Die rechten »Mut«-Bürger Entstehung, Entwicklung, Personal & Positionen der »Alternative für Deutschland«*. Hamburg: VSA Verlag.
- Langenscheidt (1998): *Langenscheidt. Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache*. Berlin.
- Lanius, David (2017): *Wie argumentieren Rechtspopulisten? Eine Argumentationsanalyse*

*des AfD-Wahlprogramms*. Karlsruhe: Institut für Technikzukünfte.

Nachtwey, Oliver (2019): System ohne Stabilität: Der Niedergang der Volksparteien. *Blätter für deutsche und internationale Politik* 2/2019. Berlin: Blätter Verlagsgesellschaft: S. 95-102.

Rayson, Paul (2003): *Matrix: A statistical method and software tool for linguistic analysis through corpus comparison*. Ph.D. thesis. Lancaster: Lancaster University.

Scharloth, Joachim (2017): Ist die AfD eine populistische Partei? Eine Analyse am Beispiel des Landesverbandes Rheinland-Pfalz. *Aptum. Zeitschrift für Sprachkritik und Sprachkultur*. 13 (01). Bremen: Hempen Verlag: S. 1-15.

Scharloth, Joachim; Bubenhofer, Noah (2011): Datengeleitete Korpuspragmatik: Korpusvergleich als Methode der Stilanalyse. In: Felder, Ekkehard/ Müller, Marcus (Hrsg.): Vogel Friedemann.

*Korpuspragmatik. Thematische Korpora als Basis diskurslinguistischer Analysen*. Berlin, New York: Walter de Gruyter: S. 195-230.

(いとう・ゆうすけ 学習院大学人文科学研究科博士前期課程)

## Diskurse der AfD im Deutschen Bundestag Populismus aus sprachlicher Sicht

Yusuke Ito

Die Bundestagswahl 2017 war ein Rückschlag für die Regierung von Bundeskanzlerin Angela Merkel, die langfristig Stabilität genossen hatte, denn die Regierungsparteien, die aus den Parteien CDU/CSU und SPD bestanden, hatten viele Stimmen verloren. Auf der anderen Seite gewann die neue politische Partei „Alternative für Deutschland“ (AfD), die als rechtspopulistische Partei gilt, zum ersten Mal seit ihrer Gründung im Jahr 2013 Sitze im Deutschen Bundestag. Sie setzte sich öffentlich für den Ausschluss von Flüchtlingen und Migranten ein.

Das „Wahlprogramm für die Bundestagswahl 2017“ hat Lanius (2017) aufgrund der Argumentationsanalyse von Betz/Brunn (2016) untersucht und die Argumente der AfD rekonstruiert. Seine Analyse hat aus dem Wahlprogramm ein argumentatives Muster der AfD herausgearbeitet, nach dem die Populisten operieren. Das „Kernargument“ der AfD lautet: „Die Populisten sind die einzige Rettung der Gesellschaft vor dem Untergang.“ Dabei wird dieses Argument als Konklusion durch zwei Prämissen begründet: (1) „Untergang“: „Die Gesellschaft steht vor dem Untergang und muss gerettet werden“ und (2) „Rettung“: „Die Gesellschaft kann nur gerettet werden, wenn die Populisten an die Macht kommen.“ Die Prämissen werden dann ihrerseits jeweils durch weitere Prämissen unterstützt: (1) „Untergang“ durch „Zuwanderung“, „Kriminalität“, „Islam“, „Leitkultur“, „Ungerechtigkeit“, „Globalisierung“, „Demographie“, „Gesundheitssystem“ sowie „Innovation“ und (2) „Rettung“ durch „Stimme des Volkes“ und „Verwirklichung des Volkswillens“. Lanius weist zwar darauf hin, dass man den Populismus, neben seinem Inhalt, auch an seiner sprachlichen Form erkennt, aber als Beispiele dafür werden nur allgemein die übermäßige Vereinfachung komplexer Sachverhalte und eine volksnahe Sprache genannt.

Der vorliegende Aufsatz will sich nun auf die Sprache der AfD konzentrieren,

auf die Lanius nicht näher eingegangen ist. Der Aufsatz beschäftigt sich aufgrund der herausgefundenen sprachlichen Eigenschaften der AfD als populistischer Partei mit ihren politischen Ideen und Strategien, die als Sprache zum Ausdruck kommen. Zu diesem Zwecke verwendet der Verfasser 164 Konferenzen (24. Okt. 2017 - 29. Mai 2020) nach der Bundestagwahl 2017 und vergleicht die Lexika der Parteien, die Sitze im Deutschen Bundestag haben, miteinander; es geht also um diese Parteien: CDU/CSU, SPD, AfD, FDP, Die Linke und Bündnis 90/Die Grünen. Die Protokoll Datenbank wird mit korpuslinguistischen Methoden analysiert. Dieser Korpus besteht aus ca. 8.700.000 Wörter und wurde in sechs Parteien unterteilt: ca. 2.700.000 Wörter von der CDU/CSU, ca. 1.750.000 Wörter von der SPD, ca. 1.200.000 Wörter von der AfD, ca. 1.050.000 Wörter von der FDP, ca. 930.000 Wörter von Die Linke und ca. 1.030.000 Wörter von Bündnis 90/ Die Grünen.

Eine statistische Auswertung der Lexeme zeigt, dass die Diskurse der AfD im Bundestag von einem populistischen Sprachgebrauch geprägt sind, um damit an die Wähler und Wählerinnen zu appellieren. Beim Vergleich des Wortgebrauchs der AfD mit den anderen Parteien zeigt sich, dass es viele interessante Stichwörter gibt, wie z.B. „Volk“, „Bürger“, „Steuerzahler“ usw., die die AfD besonders häufig benutzt. Unter den signifikanten Kollokationen zu „Volk“ befinden sich Wörter wie „unser“ und „eigen“. Diese Wortverbindungen werden verwendet, um sich von den anderen Parteien zu unterscheiden und um das Bild zu erzeugen, dass sich die AfD besonders für das deutsche Volk einsetze. Außerdem stellt „Bürger“ ein wichtiges Stichwort der AfD dar, obwohl dieses Wort normalerweise eine kosmopolitische Bedeutung hat, man denke nur z.B. an das Konzept „Weltbürger“ bei Kant. So ist hier besonders das Wort „Wutbürger“ auffällig, welches das deutsche „Wort des Jahres“ 2010 war. Der typische „Wutbürger“ ist ein konservativer Mann mittleren Alters, der gegen das Establishment rebelliert. Die AfD sieht darin ihr Wählerpotential und appelliert an es, um es zu begleiten. Deshalb verwendet die AfD oft den Begriff „Bürger“ in Kombination mit „unser“ und „mündig“, was folgendes Beispiel zeigt: „Wir von der AfD sehen auch in einem Arbeitslosen einen mündigen Bürger, einen Menschen, der Anspruch auf wertschätzende Behandlung hat“ (Rede von Jörg Schneider am 12.09.2018). Weiter verwendet die AfD einen strategischen Diskurs, der legal die

Haltung zum Ausdruck bringt, Flüchtlinge nicht anzuerkennen, indem von „sogenannten Flüchtlingen“ gesprochen wird, weil es gesetzliche Verbote gibt, Personen öffentlich rassistisch und/oder religiös zu diskriminieren. Der Populist betrachtet sich jedoch als Vertreter des Volkes und schließt seine Feinde vom Volk aus. Die AfD verwendet in ihrem Diskurs einige Stichwörter, die bedeuten, dass sich diese Partei als Vertreterin des Volkes bezeichnet und alle anderen ausschließt, die keine gemeinsamen Werte mit ihr haben.

